



第3回

阿蘇市文化協会  
広報委員会

ため、「自分の地域の伝統文化」を出来る限り理解することは、全国各地における急務といえます。幸い、阿蘇地域にはしっかりと体感できる伝統文化があります。これは、永い年月の中で創られたかけがえのない財産です。私達人間は、子ども達にその伝統文化を深く理解するよう、そして日本文化そのものへの理解へと導く役割があると思います。

体感して語ろう



阿蘇市長  
佐藤 義興

謹んで新年のお慶びを申し上げます。阿蘇市では、今年で二回目の新年を迎えました。いよいよこれから成長期といったところです。

ところで、日本について聞かれても答えられないという、海外在住の日本の若者達の話を耳にされたことはないでしょうか。もちろん全員が、という訳ではありませんが、これは文化の交流と発展を語る上で、とても示唆に富んだ話だと思えます。

自国の文化への理解と誇りは、海外の人とのコミュニケーションの種となり、互いの相互理解へとつながるはずですが、それが、なぜ「語れない」日本人となったのでしょうか。

それは、地域社会に根付いた文化的習慣が徐々に薄れ、日本独自の文化を体感する機会が減少していることも原因のひとつだと思われ、今、確かな伝承が求められています。

英語を話せても、自国の文化を語れない。残念なことです。文化交流の担い手となる真の国際人を生み出すため、また文化を守り発展させる

また、九州は天孫降臨の地として日本神話の重要な舞台であり、阿蘇地域を見ても阿蘇神社の御祭神である建甕槌命をはじめ、歴史のロマンにあふれています。国際人育成そして生涯学習に「阿蘇の文化」を活用し、その文化を誰もが語れるようになることを心から願っています。

マナーアップで  
活性化を



阿蘇市文化協会  
会長 岩永 浩

新年明けましておめでとうございませう。去る九月のことでした。日曜日にテレビを何気なく見ていると、オペラの「蝶々婦人」の放送があつておりました。すると、大勢の外国人オーケストラの中で日本人が和太鼓・三味線・琴等の和楽器の演奏をして

いたのです。又、振袖姿でのソプラノ歌手の独唱もありました。「芸能・芸術に国境はない」と痛感した出来事の一つでした。

また、十一月二十三日に第一回阿蘇市子供芸術祭が開催され、一日中拝見することが出来ました。子ども達の虎舞・牛舞・神楽等素晴らしい演技・演奏に目頭が熱くなる思いをし、将来に希望をもてる一日でした。将来の阿蘇の文化の発展のためには子ども達はもちろん、若い方々の力は必要不可欠です。我々はその土台作りをするべく、応援・努力していきたいと思えます。

さて、今年度の会員研修は、十一月三日（文化の日）に松橋町・城南町に総勢一〇九名、バス三台で文化祭を見学に行きました。六〇七〇〇人収容できる文化ホールでの芸能発表にとても感動致しました。先方役員さんとの懇親会で、文化ホール落成後は一般町民の方々が文化協会・生涯学習等への入会増員となり、各部会の発表等が多くなり活性化されたとおっしゃっていました。しかし、何が一番良かったかと言うと、各種団体ひいては町全体のマナーが良くなったと言う事だそうです。マナーというのは出演者のマナー、参加者のマナー、観客のマナーという事です。建物や場所・雰囲気によって同じ作品・演技でも質の向上が得られます。これがお互いの向上心を刺激するのにつながるのだと考えます。

阿蘇市においても歴史や自然が豊富なこの環境にマッチした文化ホール・多目的会館建設が実現し、今後の阿蘇市発展の起爆剤になればと思えます。

阿蘇市文化協会

副会長 山部 チズ子

文化協会も合併して二年、手づまりの状態の出発ではありましたが、会員皆様の協力により少しずつ基礎作りが出来てきたと感じています。十月二十八日、二十九日と第二回文化祭が行われましたが、ステージの部、展示の部共にプロ顔負けの素晴らしいものでした。このすばらしい文化祭を阿蘇市民多くの人達に観て頂きたいと思うのでした。十一月三日は、他の市町村に文化祭を見学に行きましたが、あらためて阿蘇市の文化のレベルの高さに驚かされました。このすばらしい文化を若い人、子ども達に是非継承していきたいと思いました。私は生涯学習講座で、三味線の指導をして居ります。三味線は義太夫、歌舞伎の長唄、清元等の他、地唄、新内、端唄、小唄、民謡の伴奏楽器として、又独奏楽器として発展してきました。三味線は、弦楽器（三絃）と打楽器（胴太鼓）の両方のすばらしい機能を持った楽器です。弦楽器の奏でる旋律は、人間の喜怒哀楽を表現し、心をなぐさめ、打楽器の生命の躍動するリズムは、生きる力を与えてくれます。また歌や語り物の伴奏楽器として言葉では表せない人間としての在り方、生き方の深い思想を伝えてきたと思えます。

二〇〇二年より文部省も和楽器の導入を定めました。三味線が新しい国民音楽の誕生をうながす一翼を担うものと思われたい。三味線を通して我が国の文化の美しさ（価値）にふれる事ができると思えます。阿蘇市民の皆様、三味線に挑戦してみませんか。



ステージ委員長  
岩本 昭一郎

新春を寿き謹んで御祝辞を申し上げます。皆様すこやかに正月を迎えられた事とお慶び申し上げます。平成十八年第二回阿蘇市文化祭を省みて一言。

合併して第二回目であることから、協会役員の積極的な取り組みと会員各位のご理解・ご協力により順調な企画運営によって盛会裡に終わりました事は、ご同慶の至りに思います。去る十一月、文化祭の反省会を開き多くの役員よりさまざまなご意見や問題点について発表を頂き、次回に対応すべき貴重な事項をまとめる事が出来たこと、大変有難く感謝しています。

私なりの反省の中で、先ず今回良かった点は、舞台装置の中で照明と音響関係にプロ(専門業者)を依頼した事である。業者のきめこまかな気づかいと協力によって舞台演出効果が一段と映えて、各出演者はもちろん、観客に与えた印象は好評であった事はステージ部門の盛り上がり

に効果的な要素となった。それから、ステージ部門に携わって頂いた各役員が、自分の任務と役割を理解され、その責任の上で実践されていた事、自分の出演を持ちながら努める事は大変だったと思う。なお今回、昨年同様の司会者を依頼したが、さすがベテラン揃いで、演出進行、時間の調整はもとより演出者の紹介等、適切な心配りと対応、温かい配慮によりスムーズに立派な進行が出来た事が特に良かった。

み、研鑽し、効率的に楽しみながら友達・仲間・グループ作りの中で、練習・努力したもの、その成果を確かめ、発表する場である。このような文化祭が年々内容が充実し、高度化している事は誠に喜ばしい限りである。しかしながら、数多くの文化活動、種目のほとんどがその対象となるものが高齢化した会員で占められている事はいなめない事実である。従って、もっと若い世代の人達が喜び期待して加入出来るよう積極的な働きかけ、促進の方法を考える必要があると思う。

それから、第三回文化祭をめざして更なる充実を図るため考えられる事として、現在文化祭の会場を市体育館で開催しているため、波野や一の宮地区の遠隔地からの参加者が限られていて、出演関係者のみにとどまっていることから、もっと多くの市民が参加出来るような公的・交通関係(例えばスクールバスや福祉関係車輛)等、配置活用を図り、効率的且つ安全な送迎ができるような工夫はできないものか一考すべきではなからうかと思う。

この度、文化協会の健全育成と活動強化運営を図る上で、行政機関(教育委員会)との緊密な連携を図り、各種事業活動の推進に適切な指導、助言を受けながら協議を密にし、円滑な運営に資する事が肝要である。そして市民の文化意識の高揚に努め、活発な活動実現を展開する中で、お互いが仲良く励ましあひながら感動を分かち合せて、やる気とねばり強い協力体制のもとに生活文化の振興・発展に努める事を希望し期待するものである。



阿蘇の文化遺産 於：県立美術館 文化協会研修旅行

初夢を見ました!

展示委員長 関 英 輝

阿蘇の冬は厳しい。我が家の小さな庭にも霜柱が立つ。それも五・六センチに成長する。コンクリートに囲まれた都会では、お目にかかれな。霜柱を子どものように踏み潰してみると、気持ちが良い。ごく薄い土の層の下に細い六角柱の水の柱が並んでいるのですが、霜柱になる前は水と土が混在する単なる地面があったのです。寒さのために水分が凍り、地中の深いところから水分が補給され、さらに凍っていき表面を押し上げ柱状になるといいます。土と水分を分けようとしても簡単ではありません。

阿蘇市には、豊かな文化的土壌があります。しかし、それは混然と生活の中に埋没し区別できない形で時が流れています。ある日、何かの「き

っかけ」で生活に潤いと自己表現の思いが湧いてきます。創造的な活動は、日常の繁雑さの中で、心のやすらぎと熱中する豊かな時間を与えてくれます。文化祭は、その「きっかけ」だと思っています。また、水分を含んだ土から純水の霜柱を成長させるように、創作活動の環境づくりと手助けが文化協会の働きではないかと思えます。第二回文化祭でも、多くの方々の思いが千点を越える膨大な作品展示となり、二日間に及ぶステージ発表となりました。その結果、作品展示面積が不足し、舞台発表の時間調整に苦慮する事態となりました。阿蘇市民の潜在する豊かな文化的土壌は、自信を持って誇ることが出来ます。すばらしい文化ホールが実現した初夢を見ました。



祭り歌三十八年ぶり復活

南黒川文化保存会 松野 信 重

打越神社は永年、牛馬安全、水の神として村人は崇拝してきましたが、時代の流れの中、昭和四十年代に祭事が途絶え今日に至っております。私達は南黒川文化保存会を造り、打越神社の素晴らしい祭り歌を区の文化として保存していく事で区民の御賛同を頂き、平成十六年十二月、三十八年ぶり復活した訳であります。これからも、日々練習を重ね、文化祭等に参加し、又、若い人達に保存会に参加していただき祭りの歌の保存に努めてまいります。

## 「民舞」

泉 ケイ子

永い間、生涯学習講座の民舞の指導をされてきた山本トメ子先生の後を、今年五月より受け継がせていただきます。

受講生二十二名で月二回の練習となっています。各係が決まっています。各係がちゃんと機能し、私はただ、踊りだけを提供すればよいといった具合です。

早速、文化祭参加に向けて「歩」「八木節」の二曲に取り組みました。九月からは、月二回の練習から、毎週の練習に切り替えて練習してきましたが、全員が大変熱心で、汗だくになりながら、一生懸命頑張りました。

本番（文化祭）では、多人数、経験年数等に幅があり、一糸乱れず！とまではいきませんが、現状の割には良くできたなあ：と満足しています。

全員が心を一つにして、一生懸命になれることや、また人の気持ちをよく解る人達ばかりで、練習があつた日は、心地良い満足感があります。時々家に貼付けてある受講生名簿を見るのですが、不思議に各人それぞれの笑顔が浮かんできます。私は好きな踊りを通して、このような素晴らしい人達に出会えて、こんなに嬉しいことはありません。感謝です。これからも、受講生のみなさんを大切にしながら、よい踊りを提供していきたいら幸せだなあ：と思っています。



## 「手話ソング」

熊本県手話サークル  
わかぎ阿蘇グループ会長

小嶋 維 男

手話サークルわかぎ阿蘇グループの恒例行事となった手話ソングによる文化祭出演、今年で四回目を迎えました。八月の火の山まつりでの踊りの練習が終わると、次に始まる手話ソングの練習。今年は何にしようか、あれもいいね、これもいいね、で決まった二曲。

毎週木曜日の夜七時からのサークル例会の時間内で毎回一時間程度の練習を積み上げて遅る本番ステージ。なかなかどうして、年々覚えるのは時間が掛かり、忘れるのはすぐという、熟年特有の症状が出て、勝手な手話が飛び交う練習風景。それに引き換え保育園児の皆さんの覚えの早いこと、ビックリです。

「今年も一緒にやりましょう」ということで二年連続、永草保育園の園児の皆さんとの共演となりました。今年も保護者の皆さんのサポートとして参加も多く、本番前の通路でのリハーサルも大変盛り上がりしました。また、聴覚に障害を持つ方の参加も増え、閉じこもりがちになる中、大変よいことと思います。「手話っていいですね、素敵ですね、習ってみたい」と声をかけられる回数も多くなりました。

音の無い世界、聞こえない世界ってどんな状況でしょう。ちよつと想像してみてもいいですね。市役所から防災無線は聞こえませんが、緊急であつても、JRやバスターミナルの待合室で、突発事故による運休やダイヤ変更も分かりません。都会の電光表示板のある所はいいでしょうが、病院

待合室で呼ばれても分かりません。大変ですよ、聞こえないって。でも、私達健聴者が、少しでも聞こえないということに関心を持つことで状況は大きく変わります。聴覚に障害を持つ方は、聞こえないけど会話ができます。手話という言語を使っています。昭和三十八年京都で手話学習は始まりました。以来今日まで培われてきた手話という一つの文化。わかぎ阿蘇グループは、これからもしっかりと手話文化を広めていきたいと思っています。協会員の皆様有難うございました。

## 尺八と琴

竹原 宗 二

私が所属する会は「壹越会」といいます。壹越とは邦楽音名で、洋楽の「レ」になる音で尺八の音では最も重みのある基本の音です。

メンバーは指導者の資格を取得した五名で、毎週月曜日に練習しています。各自、仕事等がありますので、全員で練習をすることはなかなかできません。でも、演奏会等の期日が決まると、全員で演奏曲を猛練習します。

演奏会では、阿蘇市にある「箏絃会」という琴の教室の皆さんと合奏をします。箏絃会の皆さんは熊本市等で活躍されているすばらしい師匠上迫田日呂子先生に指導をされています。

このグループと演奏会の曲を合奏するのですが、琴には「二琴・三琴・十三弦（琴）三味線・唄」の部門があり、尺八と演奏することは大変難しいため、まずは尺八と琴、別々に練習をし、演奏会前に何回も合奏練習をして演奏曲を完成させます。

演奏会が終了すると、満足感と音色に魅せられ、尺八を継続していく熱意が増します。これからは、演奏会を通じて、多くの人に邦楽のすばらしさを知ってもらいたい、又、尺八・琴、他の楽器と演奏できる機会があれば研究を重ねて是非実現させたい、という夢を抱きながら、これからも演奏活動を続けていきたいと思っています。

## 健康とボランティア活動

玉すだれ会教室

佐藤 弘

健康とボケ予防のために始めた南京玉すだれと銭太鼓、どちらも「考える」「指先を使う」。銭太鼓は、日本民族楽器の一種で、銭の触れ合う音を利用し、リズム楽器として踊りの伴奏に使われます。

現在、七名のメンバーで、特別養護老人ホーム、学校、保育園、老人会等にボランティアに行く大変喜ばれます。

銭太鼓は「熊本の民謡、肥後五十万石」ボンボコニヤ（江戸時代熊本の本PRソング）、キンキラキン（江戸時代）、「あんたがたどこさ」「牛深ハイヤ節」「皿まわし」「レクレーションダンス」を踊ります。

この様に、ボランティア活動ができるのも健康であるからです。健康であることに感謝しながら、七名の仲間と練習を重ねながら、ボランティアを続けていきたいと思っています。

## 『押し花教室』

蔵原将子

私が押し花を習い始めてもう二十年程になります。押し花と云えば、子どもの頃、遠足に行き紅葉したきれいな落ち葉を拾い本にはさんで、忘れた頃それを見付けて喜んだ。それが私の知る押し花でした。

しかし、押し花の世界の何と奥の深い芸術である事を知りました。私達は、『ふしぎな花倶楽部』と云う押し花の系列です。全国にグループがあり、芸能人の水前寺清子さんも会員の一人です。外国でも愛好者の輪が広がり、展示会も異国情緒で多才です。講師は渡辺智子先生で、以前はRKK教室の講師もなされた先生で、現在も熊本教室でも活躍されています。

優しい花のイメージ其のままのお人柄で教室でのお話も楽しく明るい仲間の交流も、先生の御指導があつてこそと思われまします。現在十数名の生徒で、月二回の教室です。花の美しさ、草木の自然の変わらぬ色を残せる押し花額の作製は、個人の絵心センスが活かされて、それぞれに素晴らしい作品です。保存次第では、何年も其のままの状態です。阿蘇の五岳、根子岳、四季折々の風景、記念の花束、野辺や道端の草花等々、心に残る思い出を押し花にして残してみませんか。

## 藤手芸(自主講座)

川端 萬里子

ここ何年か文化祭には山野に自生する「つる(かずら)」を使った「かご」を展示しております。秋になる

とみなで出かけ、ひとときわ鮮やかになった山野の雑木にからまるアケビやツズラ、クズなどを採集します。主に、枝にからまった「つる」ではなく地面を這っている「つる」をていねいに引つ張って取ります。

採集した「つる」は陰干しカビが生えないように保存します。編むときは水や湯に漬けてやわらかくします。自然の曲がりや枝節のくせを生かすことで面白くダイナミックな作品ができます。しかし、最初は輸入された「籐(ラタン)」というつるを使って「かご」の編み、巻き、組むといった技法を学び、練習します。かごを作ってみたいという気持ちにはさまざまです。先人の遺した「ざる」や「めご」、「ては」といった生活に根ざしたかご、用と美をかねそなえた工芸としてのかご、自己表現としてのかごと、つくり手によっていろんなかご作りがあります。

## 着物リメイク教室

山内 美佐子

着物リメイクや、リフォームと云う言葉はよく聞き、又作品もよく目にしていました。そんな時、社会福祉協議会から、高齢者向けの教室の募集があり、喜んで申込みました。

参加してみますと、六十代から八十代までの方々の大勢の集まりでした。指導して下さる湯野先生のお人柄もさる事ながら、和気あいあいの教室となりました。箆筒で眠っているはずの着物達が見る見る甦り、す

ばらしい作品が出来るようになりました。

今まで、いろんなブティックに買いに行ったり目の保養していましたが、今では作る事で、祖父母や両親との思い出や温もりを感じながら、思わぬ作品が出来ていく事に感動するばかりです。

最初は、どうなるだろうかと心配でしたが、みんなを持ち寄った和布の良さを語り合いながら、アイデアやデザインを出し合い、布を交換しながら、なお一層良き作品が出来ています。伝統的な織物の技術や染色の良さに驚く事ばかりです。

文化祭に初めて出品し、見に来られた方々が手に取り感心されたり、私達にも出来るでしようかと云っていただいた事が、私達もこれから励みになります。

これからも、箆筒に眠っている着物を甦らせる為にも、阿蘇市の皆様が一人でも多く参加されて、自分の作品を楽しみながら身につけて過ごす事が出来たら友達の間も広がると思います。これからもみんなで一生懸命頑張りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

## 陶芸教室

藤井 貴美夫

趣味として陶芸を始めて五年になる私は、今では、一の宮高齢者センターで受講しております。



お正月かざり 「松竹梅」園芸教室

この教室は、毎週月曜日と水曜日に別れており、私は水曜日の方に加入しております。会員は、月曜日十六名、水曜日十九名の三十五名(男性七名、女性二十八名)で、加藤敏先生(窯元「瀧」産山村)の指導を受けながら作品づくりをしております。

教室では、毎週大きな花瓶から小さな器など、それぞれ個性あふれる作品などで、みんな世間話に花が咲き、和気あいあい楽しく作品を作っております。

平成十八年十月二十八日、二十九日の二日間、阿蘇市体育館において開催されました阿蘇市文化祭には、阿蘇市文化協会のご厚意によりまして、私たち陶芸教室の作品も展示させて頂き、陶芸教室の皆さんは大変喜んでおります。そしてまた、次年度の文化祭にも陶芸教室の作品を是非展示させて頂くことを願い、今から次の文化祭出展に向けて、立派な作品を作ろうと会員は意気込んでおります。

# ビーズアクセサリー

斉藤 アサ子

平成十八年、ビーズアクセサリー教室が開講しました。月一回、午後一時から四時までです。就職センターの洋間です。ビーズアクセサリーは大変むずかしいと思われていませんか？私もそう思っていました。でも大丈夫です。初めての方でもやさしい先生が一人から指導下さいますので、(指輪でもネックレスでも)作れます。ほとんどビーズ針を使って通していきますので、作品の出来上がりはとてきれいです。今はビーズブームですので、プレゼントなど大人気です。一生懸命作っていると、時間の経つのも早いこと、又作品が出来上がった時の嬉しいこと。次は何ができるかなあ、今度は誰かにプレゼントしようかなあーなど。教室は毎回和気あいあいと冗談も飛び交い楽しいものです。興味のある方、ちょっと見学にいらっしやいませんか？皆一同お待ちして居ります。

# 「きり絵教室」

高倉 ヤツ

「坂梨きり絵」生涯学習講座きり絵教室があつていましたのを見ていただき、すばらしい作品に感動致しました。

月に二回の学習講座きり絵教室を見せていただき、すばらしい先生作品に感動しました。その時、私にも出来るかな、又続けられるかなと思つて不安でした。でも、皆さんの力添え、ありがたい言葉に私もやってみようと心に決めて仲間に入れて

もらいました。

最初のうちは思うように出来ないで不安でした。でも、初めての作品が出来た時の喜びは忘れられませんでした。先生や先輩のおかげだと思ひ、これからはあせらずに楽しく続けていこうと思ひました。坂梨公民館、坂梨小学校、文化祭にも展示することが出来、皆さんと楽しく出きる喜びでいっぱいでした。

皆さんと一緒に今まで以上に、いろんな作品が出来るようにと思つて、楽しく続けていこうと思ひます。



# 「革手芸」

岩切 ヨシ子

革手芸教室は、現在月に二回実施しています。午前十時から午後三時までです。すばらしい先生を中心に、和やかな雰囲気の中で、それぞれ自分の作品づくりに取り組んでおります。

この教室には三つの特徴といえます。その一つは、私達にとって一年の総仕上げとも思われてる「市の文化祭」で、先ず作品の「形の選定」、次に「模様のためき込み」、さらに「色づけ」、そして「仕立て」とアイディアや智慧を出し合い、一針、一針と苦心して丹精込めて仕上げた作品「サイフ、バック、手提げ、装飾品」等々を会場に展示し、多くの来場者の方々に観賞していただく事で、これまでの苦勞も一掃し、各自が手がけた作品の完成に喜びと満足感をいただき、今

後の創作意欲もおおいに高まり、最高の幸を感じる時でもあります。

第二の魅力は、お昼のお弁当の時間です。各自が作ってきたいろいろな料理の品が数多く廻ってききます。時には、自分のおかずは一口も食べなくてもいい程美味しい物があります。これを楽しみにしているという人もいるという和気あいあいの楽しい教室の風景です。食後は、料理自慢の話や野菜作り、花作りと大いに役立つ学習会ともなり、実にすばらしい時間であります。

三番目は、皆で少しずつ「積み立て貯金」をして旅行していることです。国内、時には海外へも行つております。旅先では大いにはしゃぎ心のいやしともなっています。

同じ趣味で集まった人達が、こうしたことから日常生活に「張り」と「気」をもたらしめ、仲間意識を深め、さらにすばらしい友が多く集まってくることを期待するものであります。



展示部 (ステンドグラス)

# 出会い

編物教室 池田 チズ子



仕事をやめ、何をしようかと思つていた時、町からの生涯学習の申し込みを見ました。その中で、「編物」の文字を見た時、母の事を思い出しました。縁側で編物をしていた母、私も老後母の様に、のんびりと編物でもしようかとすぐに申し込みをしました。

何も知らないのです、どうしようかと心細く教室に行きました。此処においで、知らない人が席を作つて下さいました。すぐに、輪の中に溶け込む事が出来、ほっとしました。何も知らない一からの出発、先生には厄介な生徒だったと思ひます。失敗しては解き、失敗しては解き、しながら一本の糸から色々な模様が出来、作品が出来上がった時の喜びはひとしおでした。

生涯学習で編物がなくなつてからは、七人で先生の家で、月一回自習学習で行つています。皆で編物の事は勿論、料理の話、世間話に花が咲き、一日はあつと云う間に過ぎます。先生にはご迷惑とは思ひますが、この出会いを大切に、まだまだ勉強して行きたいと思ひますのでご指導の程お願いしたいと思ひます。

## 着付とマナー

大森 比奈

日本には「着物」という美しい伝統文化があります。しかし現代では「死んで着物が着られない」「面倒くさい」という人が大半でしょうし、私もその中の一人でした。

生涯学習講座の「着付とマナー」に興味を持ち、早速受講することにしましたが、最初は予想以上に難しく、毎日着物でいらっしやる森先生のように私も美しく着られるようになるか不安でした。しかし、ゆっくりと一つ一つ丁寧に教えて下さいますのでだんだん上達していくのが実感できます。着物を着ると自然と背筋が伸び、日本の女性の心を持てますし、自分で着たという喜びは、何とも言えません。着装後は、お辞儀の仕方、襖の開け方、お箸や座布団の使い方など、意外と知らない基本的なマナーを教わります。

本講座は和気あいあいと楽しく、私は昨年に続き今年も受講しています。目標は、自分できた着物姿で人前に出ることです。胸をはって披露できるように頑張っています。皆さんも挑戦されてはいかがでしょう。

## 写真教室

市原 哲夫



「おっ、この花は綺麗だなあ」と、花を撮ることから私とカメラの付き合いが始まりました。あらゆる花を

撮り続けていると、今度はその周囲も気になり始め、今では阿蘇を一面に囲む雲海に夢中です。

毎日、毎日、天気予報をチェック、寝る前にもう一度空を見上げます。そして朝五時に起床。まだ暗い空がだんだんと紫色、ブルー、オレンジ色に明るく変化し、それと同時に雲海も染まっています。その様が一番好きです。

カメラに出会い、数えきれないほどの美しい景色をフィルムに収めているわけですが、今でもいい写真が撮れたと私に送ってくれる方もいます。私も負けられないと、毎日の様に朝、早起きをして山へ行きます。

私は、阿蘇五岳が見える所に住んでいます。阿蘇は毎日違う顔を見ます。思ったとおりに写真が撮れないときほど、つくづく思います。ああ、自然には勝てないな……と。それでもめげずに、私はまた、朝五時に目覚ましをセットして、このペンをおくことにします。

## 作品紹介



宮地出身  
岩永忠樹氏

去る十二月二十三日から三月四日まで、熊本市現代美術館で開催中のARS KUMAMOTO 熊本市の現在 Ⅱ 展覧会に、一の宮町宮地出身の岩永忠樹氏の作品が招待出品されております。出展の節は、ご覧下さい。



楽園ミクロネシア・神々の沈黙 / 岩永忠樹

## 事務局より

文化協会事務局長

下村 勝志

阿蘇市文化協会もおかげ様で二年目を迎え、会員相互の研鑽も活発になり、また、旧町村を越えた融合もだんだん深まり、そして阿蘇市当局の援助をいただき、あらゆる点ですばらしい一年であったと思います。

顧みますと、阿蘇家文書修復完成記念「阿蘇文化遺産展」研修、そして松橋・城南文化協会との交流、「文化祭」見学及び研修等がありました。阿蘇市文化祭は、スペシャル・オリンピックが熊本市を中心に開催されたため、十月二十八・二十九日の両日開催致しました。準備から本番ともに、会員の皆様のご協力をいただき、多少の不備はあったかもしれませんが、来年につながるいい文化祭であったと思います。展示部門では千点以上、ステージ部門では一二〇組以上の参加を戴き会員相互の頑張りで大好評でした。感謝致します。新しい年を迎えましたが、市民の文化意識の高揚と会員相互の研修を

深め、各種事業を開催していきたいと思えます。熊本に生まれ、生き、旅人の様に駆け抜けた熊本の芸術家たちの（ARS・熊本）熊本力現在アルス・クマモトの研修、十二月二十三日から三月四日、（熊本現代美術館）を予定、講演会を予定しています。投稿いただいた会員の皆様、ありがとうございました。

## 事務局よりお願い

阿蘇市文化協会では、来年度も会員を募集致します。多くの皆様の入会をお待ち致します。楽しく、皆で活動されませんか。募集の締切りは六月末日です。

## 広報委員会

明けましておめでとうございます。会員の皆様、御家族おそろいで良い新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年中は、文化協会運営につきましても、色々ご協力・ご支援を頂きありがとうございます。本年も相変わらず御協力・御指導賜りますようお願いいたします。私達広報部一同、昨年の配慮の出来なかつたことをお詫び申し上げますと共に、反省しながら頑張ります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

また、ご寄稿頂きました皆様をはじめ、ご支援、御協力くださいました方々に心より御礼申し上げます。

- 広報委員長 山内スミ子
- 広報副委員長 大塚 武子
- 広報副委員長 齊藤 英子
- 広報委員 湯浅 陸雄
- 高倉 ヤツ
- 松本ゆり子